

⑥国営昭和記念公園

昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として設置され、東京都立川市、昭島市にまたがり、東京都心から西へ約 35km、北に狭山丘陵、南に多摩丘陵を控えた武蔵野台地の一角に位置している。

■区分	口	(設置目的)	昭和天皇御在位五十年記念事業
■所在地	東京都立川市、昭島市		
■面積	計画面積	180ha	
	開園面積	169.4ha	

■広域図



■年表

S54(1979).11.30	閣議決定「天皇陛下御在位50年記念事業として行う国営昭和記念公園の設置について」
S56(1981).11.27	都市計画決定
S58(1983).10.26	第一期開園(カナル、みんなの原っぱ、花木園等) 昭和天皇御臨席のもとに開園式典開催
S60(1985).6.28	レインボープールオープン
S61(1986).4.19	水鳥の池オープン
H1(1989).4.29	天皇・皇后両陛下御臨席の下、「みどりの日」制定記念式典開催
H4(1992).10.9	こどもの森全面オープン
H9(1997).4.17	日本庭園オープン

H11(1999).4.28	皇太子・同妃殿下御臨席の下、第10回全国「みどりの愛護」のつどい開催
H16(2004).11.3	日本庭園内盆栽苑オープン
H17(2005).11.27	みどりの文化ゾーン第Ⅰ期区域オープン
H19(2007).10.13	こもれびの里オープン
H23(2011).4.1	花の丘オープン
H26(2014).4.1	みどりの文化ゾーンⅡ期区域(高松口)オープン

■コンセプト

テーマ	緑の回復と人間性の向上
理念	<p>昭和天皇陛下御在位五十年記念事業の一環として、国は首都近郊に記念公園を建設し、これを長く後世に伝えることとした。</p> <p>この公園は、本事業の趣旨に沿って、「緑の回復と人間性の向上」をテーマに豊かな緑につつまれた広い公共空間と文化的内容を備えたものとし、現在及び将来を担う国民が自然環境の中で健全な心身を育み、英知を養う場とするものとする。</p>
基本方針	<p>1) 基本的事項</p> <p>① 国営昭和記念公園は、激動の昭和を静かに顧み、緑豊かな環境の中で新たな時代の連帯と生きがいを求めるための礎石として建設されるものであり、日本を代表する公園として国際的にも特徴のあるものとする。</p> <p>② 公園全体の基調は、静かで緑あふれる、新たな空間を構成するものとする。</p> <p>③ 四季おりおりの運動、休養等多様なレクリエーション活動を通じて、人間形成の場となるものとする。</p> <p>④ 広く国民各層の連帯意識の醸成と生きがいの追求に資するため、新しい時代にふさわしい格調の高い文化活動の拠点としての性格を有するものとする。</p> <p>⑤ 大震災時の避難地としての機能を併せ有するものとする。</p> <p>⑥ わが国の伝統的造園技術を生かすとともに、広く現代の技術を結集したものとする。</p> <p>2) 施設に関する事項</p> <p>① 昭和の50年を顧みるとともに新たな時代の発展を祈念するのにふさわしい記念施設を設置する。</p> <p>② 豊かな緑と深い樹林地を基調とし、武蔵野の景観を蘇生させるための修景を施すとともに、水を有効に活用する。</p> <p>③ 四季の変化に対応し、豊かな季節感をつくりだす花園を設置するほか、わが国の代表的な花であるサクラ等を活用した花木園、日本庭園等を設置する。</p> <p>④ 老若男女が自由にのびのびと運動できる施設を設置する。</p> <p>⑤ 広大な空間に、わが国並びに世界の文化水準の向上に寄与するため、格調の高い文化活動を可能とする施設を設置する。</p>

	<p>⑥広場、園路等の施設は、大震火災時における広域避難地としての機能が十分発揮できるような規模、構造等を有するものとする。</p> <p>⑦本公園の機能を高度に発揮させるために、園内の交通施設はもとより、来園のための交通施設の整備を図るものとする。</p>
--	---

■施設

みどりの文化ゾーン	花みどり文化センター、	「緑の文化」をテーマにした各種展示や研修交流、体験、情報発信の拠点。センター内にはギャラリー、講義室、昭和天皇記念館があり、見学、展示、研修、講習、ワークショップなどができる。
	昭和天皇記念館	「花みどり文化センター」内にあり、昭和天皇の生物学ご研究や昭和天皇、香淳皇后のご遺品・写真等の昭和天皇ゆかりの資料を展示。
	ゆめひろば	約 25,000 m ² の芝生広場。芝生地は、回復性に優れたノシバを使用しているほか、電気・水道等、イベント利用に対応した施設整備を行っている。
	総合案内所、カフェ、駐車場、売店	
展示施設ゾーン	ドッグラン	利用の際には入口で利用申し込みが必要。スタッフには、ドックライフカウンセラーの資格を保有する者がいる。
	カナル	水の流れと芝生、天然石の舗石が西洋庭園のたたずまいをみせる沈床の広場。
	ふれあい広場	なだらかな起伏をもった芝生広場で、コンサートなどのイベントも開催される。
	立川口サイクルセンター、売店、ぎんなん茶屋、ふれあい広場レストラン、駐車場	
水のゾーン	レインボープール	首都圏最大級の総面積 63,000 m ² に 9 つのプールを擁する本格的レジャープール。公園内すべてをプールサイドとし、園内のほとんどの施設が水着のままで利用可能。
	水遊び広場	水深 30cm 以下で、小さな子どもも安心して遊べる。レインボープールの営業期間は有料。
	花木園	四季を感じるさまざまな花やハーブ園があり、花木園展示棟では双眼鏡と図鑑の無料貸し出しがある。ハーブボランティアの協力によりハーブ園ガイド(約 60 分)を行っている。
	バードサンクチュアリー	野鳥たちの姿を観察できる。野鳥ボランティアの協力による、野鳥の見分け方や観察方法が学べる「野鳥観察会」がある。

	水鳥の池	水面積約 5ha の池で、アシやガマなどの植物が茂り、鳥や昆虫、魚などの動物や植物に多様性のある生活環境となっている。ローボート(手で漕ぐタイプ・3 人乗り)やサイクルボート(ペダルを漕ぐタイプ・2 人乗り)でボート遊びもできる。	
	西立川口サイクルセンター、ボートハウス、売店、レイクサイドレストラン、駐車場、		
広場ゾーン	バーベキューガーデン	気軽にアウトドアクッキングが楽しめる。手ぶらでもバーベキューが楽しめるよう、必要な食材の販売やコンロなどのレンタルもある。	
	溪流広場	約 700m にわたる溪流のゆるやかな流れがあり、春には溪流沿いにチューリップが咲く。	
	スポーツエリア	うんどう広場	100mトラック 2 面トラック 1 面として使えるほか、サッカーやソフトボール(軟式・硬式野球は禁止)等の球技及びおよび団体用レクリエーションに利用できる。
		フットサルコート	国際試合基準値を採用したフットサルコートが 2 面ある。利用料無料。サッカーボールの貸出し 210 円。
		その他	3on3、ペタンク、クロッケーなどいろいろなメニューが楽しめる。スポーツボランティアの協力により、はじめての方にもわかりやすくルールやプレー方法をご説明する講習会、サンデースポーツ教室を開催している。
	みんなの原っぱ	南北に約 400m、東西に約 300m、約 11ha の広大な原っぱ。原っぱの東と西にある 2 つの花畑では春にはナノハナやポピー、秋にはコスモスが開花。桜の園では、ソメイヨシノを中心にお花見が楽しめる。また、年間を通じて各種イベントも開催している。	
	トンボの湿地	武蔵野の自然を残すために作られた人工の湿地。シーズンになるとギンヤンマ、アキアカネ、チョウトンボなどトンボの観察ができる。	
林間広場(ディスクゴルフコース)、わんぱくゆうぐ、溪流広場レストラン、売店			
森のゾーン	こどもの森	自然を体験できる施設や、こどもたち自身が遊び方を見つけるための施設がある。(ワクワク広場、地底の泉、森のとりで、虹のハンモック、森の家、工芸の森、ちびっこの森、太陽のピラミッド、霧の森、雲の海、ドラゴンの砂山、石の谷)	

日本庭園	首都圏で戦後つくられたものとしては最大規模となる「池泉回遊式庭園」。園路は回遊式で、池の周辺をめぐるにつれて刻々と変わる景観を楽しむことができる。池の西側にある「歎楓亭」ではお抹茶とお菓子の呈茶サービス(※有料)を実施している。
花の丘	約 15,000 m ² の広大な花畑。春にはポピー、秋にはコスモスが花の丘一面に咲き、公園を彩る。丘の上に上れば、立川駅方面が一望できる。
盆栽苑	わが国では初の国営盆栽展示施設。歴史と伝統ある国風盆栽展クラスの盆栽を中心に鑑賞することができ、学習ゾーンでは、盆栽が作られていく過程を初心者の方にも分かりやすく解説している。
こもれびの里	水田や丘陵畑、農家と屋敷林など、昭和 30 年代の武蔵野の原風景やそこでの暮らしを再現。「昭和・武蔵野・農業」をテーマに暮らしの中で培われてきた知恵を再発見し、継承していくことを目的としており、市民参加により整備・運営が行われ、農作業や年中行事など様々な体験を通じて、自然と暮らしの知恵を伝えていく活動をしている。
こもれびの丘、売店、砂川口サイクルセンター、緑のリサイクルセンター、駐車場	





<入園料金>

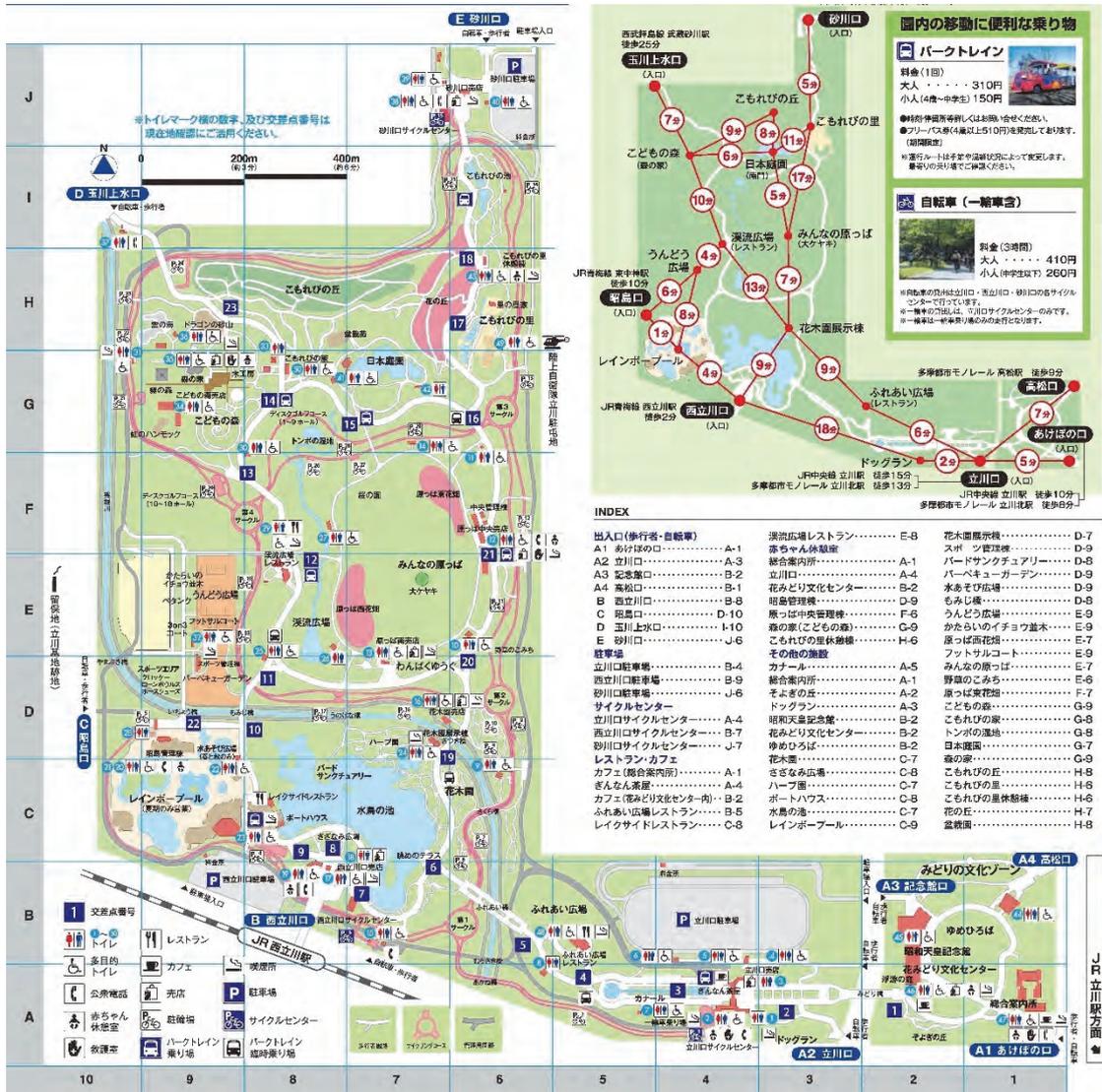
区分	大人(15歳以上)	小人(小・中学生)	シルバー(65歳以上)
一般	410円	80円	210円
団体	290円	50円	210円
年間パスポート	4,100円	800円	2,100円

無料入園日：国民の祝日（昭和の日、こどもの日、敬老の日）、春の都市緑化推進運動、秋の都市緑化月間

<駐車場>

駐車場		大型車	普通車	原付・自動二輪車	障がい者等用
料金	一般	1,750円	820円	260円	無料
	年間パスポート提示	—	720円	200円	
立川口		83台	1,755台	70台	20台
西立川口		なし	345台	40台	6台
砂川口		10台	431台	18台	6台

■園内図



■管理

利用者数	440 万人 (H27)
マスコミ報道等件数	814 件 (H24)
ホームページのアクセス数	2,473,780 件 (H25)

<ボランティア>

733 名 (平成 25 年度 4 月 1 日現在)

区分	ボランティア名	活動内容	登録者数	
ボラン ティア 公募型	管理 運営型	こもれびの丘ボラン ティア	・雑木林の管理作業 ・腐葉土づくり ・散策路の整備 等	84 名
		こもれびの里クラブ	・畑や水田での農作業 ・樹林地の管理 ・公園利用者対象のお農業体験やうどん作り 等	78 名

区分	ボランティア名	活動内容	登録者数	
植物管理型	サギソウボランティア	・サギソウの保護育成、露地植え植栽技術の研究、栽培技術の普及 ・サギソウまつりでの展示 等	49 名	
	ハーブボランティア	・ハーブの栽培管理や花壇の清掃 ・花木園展示棟でのドライハーブ展示 ・ハーブフェスタや藍の染色体験会等のイベント企画 等	70 名	
	オランダ花の会ボランティア	・西立川ゲート前と水鳥の池東側の百合花壇での球根植え付け作業、百合栽培育成 ・アジサイロードに植栽しているアジサイの管理や新規植栽	18 名	
	インフォメーション型	ガイドボランティア	・高齢者及び障がい者を含めた、本公園のガイド等	64 名
		わんわんスタッフ	・ドッグランの利用案内、衛生管理 等	4 名
		花みどり文化センターボランティア	・花みどり文化センターの案内 ・簡単に体験できる花と緑に関する体験プログラム及びミニツアー	14 名
特定団体連携型ボランティア	こどもの森ボランティア	・「遊びの教室‘ネイチャーゲーム&アート’」の運営(年7回程度) ・子ども達への工作指導、「こどもの森教室」の企画運営 等	27 名	
	草笛ボランティア	・こどもの森において園内の植物の葉を使った草笛の吹き方指導 ・草笛コンサートを開催(春・秋)	13 名	
	野鳥ボランティア	・バードサンクチュアリーの利用促進 ・野鳥の繁殖時期や営巣時期に関する情報提供等	9 名	
	野外いけばなボランティア	・管理作業で発生した剪定枝、枯損木等の活用を目的に「よみがえる樹々のいのち展」を開催 等	218 名	
	ディスクゴルフボランティア	・ディスクゴルフの普及と利用促進を図るため、ルールの解説や競技方法の指導など (協力団体:東京都ディスクゴルフ協会)	21 名	
	ペタンクボランティア	・ペタンクコートの利用促進と普及を図るため、ルールの解説や競技方法の指導 (協力団体:日本ペタンク連盟)	5 名	
	クロッケーボランティア	・クロッケーコートの利用促進と普及を図るため、ルールの解説や競技方法の指導 (協力団体:日本クロッケー協会)	7 名	
	ローンボウルスボランティア	・ローンボウルスコートの利用促進と普及を図るため、ルールの解説や競技方法の指導 (協力団体:)	25 名	
	ホースシューズボランティア	・ホースシューズコートの利用促進と普及を図るため、ルールの解説や競技方法の指導 (協力団体:日本ホースシューズ協会)	13 名	
	一輪車ボランティア	立川口サイクルセンターに併設された一輪車乗りの利用促進と一輪車の普及を図るため、利用者に一輪車の乗り方を指導 (協力団体:日本一輪車協会)	2 名	
	ターゲットバードゴルフボランティア	ターゲットバードゴルフの普及を図るため、毎月第3日曜日「サタデースポーツ教室」のイベント時のみ溪流広場北側において、ターゲットバードゴルフの仮設コースを設置しルールの解説や競技方法の指導 (協力団体:立川市ターゲットバードゴルフ協会)	24 名	

<H29 重点管理項目>

植物管理

- ・日本庭園、盆栽苑をはじめ、伝統的な造園技術の保存、研究、継承に努める。
- ・雄大な景観とヒューマンスケールにあった心地よい景観の両方が調和した空間を創出する。
- ・連続性や統一感を高めた、優れたランドスケープを創出・継承する。
- ・トータルランドスケープを意識した景観管理手法の確立をめざす。
- ・時を経て絵になる場所、日本らしい特徴ある景観づくりを進める。

地域連携

- ・「みどりの文化」に関する地域住民や造園関係の学会、大学等との連携により、人材育成を進める。
- ・公園から地域に広がっていく「みどりの文化」の浸透を促進する。
- ・ボランティアと連携し、より魅力的な公園となるよう取組を進める。
- ・地域、企業、研究機関と連携した花みどり等に関するイベントの実施を進める。
- ・広域観光との連携、公園の利便性向上により、海外からの利用者の誘致を進める。
- ・地方公共団体や地域住民と連携し、地域の防災意識の向上を図る。

環境保全

- ・わが国の伝統的な文化である人間と自然との関わり方を継承する。
- ・再生可能エネルギーなど、環境技術を活用したCO2削減への取組を推進する。
- ・地域の緑の拠点として、環境保全・緑化に努める。
- ・自然環境の保全や多様な生物の生息・生育環境の創出・向上を図る。
- ・周辺環境との連続性を保ち、エコロジカルネットワークの形成を促進する。

⑦ 国営滝野すずらん丘陵公園

国営滝野すずらん丘陵公園は、道央圏を中心とする広域的なレクリエーション需要に対応するために設置された。国営公園としては、日本最北に位置し、北海道で初めて通年利用が可能な公園として、グリーンシーズン(夏)、ホワイトシーズン(冬)を通じ、約 60 万人/年が来園している。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	北海道札幌市 (札幌市の中心部から約 20km の札幌市南区滝野地区に位置し、車で約 30 分の距離にある。)		
■面積	計画面積	396ha	
	開園面積	395.7ha	

■ 広域図



■年表

S52(1977).1.17.	都市計画決定
S53 年度	都市公園を設置すべき区域の告示
S54 年度	都市計画事業承認
S58(1983).7	「溪流ゾーン」の一部供用開始(供用面積 30ha)
S60 年度	「歩くスキーコース」「そり遊び広場」など冬季利用開始(供用面積計 92ha)
H1 年度	「青少年山の家」の供用開始(供用面積計 110ha)
H6 年度	「オートリゾート滝野」の供用開始(供用面積計 130ha)
H11 年度	「ファミリーゲレンデ」の供用開始(供用面積計 154ha)
H12 年度	「中心ゾーン」カントリーガーデン、こどもの谷の一部供用開始 (供用面積計 182ha)
H14 年度	「中心ゾーン」こどもの谷の全部供用開始(供用面積計 186.4ha)
H16 年度	「森のすみか」供用開始(供用面積計 192.3ha)
H21 年度	「滝野の森ゾーン」の一部供用開始(供用面積計 296.2ha)
H22 年度	「滝野の森ゾーン」の全部供用開始 (5月22日全園開園、供用面積計 395.7ha)

■コンセプト

テーマ	自然と人・人と人のふれあい
理念	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の保全・活用 ・安全・安心で魅力ある空間づくり ・多様なニーズに対応
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自生植物や貴重な自然資源の保全・活用 ・草花を活かした彩り豊かな美しい景観の形成 ・良好な環境の形成 ・リスク低減対策など危機管理の強化による安全・安心な公園の創出 ・人づくりへの貢献 ・多様な利用機会の提供と積極的な情報の受発信 ・インバウンドへの貢献 ・インフラストックの活用 ・メンテナンスサイクルの構築 ・トータルコストの縮減 ・バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

■施設

渓流ゾーン	滝野公園案内所	休憩所も兼ねた総合案内所	
	公園の駅「パークステーション」	自転車のレンタルを行っている	
	鱒見の滝	公園の東側に位置する落差 18m、幅 20m にも及ぶ優美な滝。夏はアクティビティが楽しめる	
	アシリベツの滝	落差 26m の風格ある表情で「日本の滝百選」にも選ばれた滝野の名所	
	パークブリッジ	滝野のシンボルブリッジ	
	焼肉ガーデン「あしりべつ」	ジンギスカンが食べられる	
	ロッジ「ゆきざさ」	軽食コーナーの他、炊事道具のレンタルや食材の販売も行っている	
	釣堀フィッシング・タキノ	ヤマメやニジマスが釣れる	
	渓流園炊事コーナー	約 300 人が同時に利用できる炊事広場	
	鱒見口炊事コーナー	約 100 人が同時に利用できる炊事広場	
	炊事遠足広場	園内で 1 番広い炊事コーナー 同時に約 1,000 人が利用できる	
	疎林広場、平成の森、駐車場		
中心ゾーン	カントリーガーデン	くらしの花園、花のテラス、峠の庭、山のお花畑、スズランの小径、花人の隠れ家、カントリーハウスの庭園(レストラン)、収穫の谷、花のまきば、まきばのせせらぎ、水の広場、ファミリーゲレンデ(冬季)	美しい花々が楽しめる
	こどもの谷	虹の巣ドーム(屋内)、フワフワエッグ、ローンスタジアム、あり塚の塔、ありの巣トンネル、森のせせらぎ(夏季)、さまよいの洞窟、溶岩滑り台、マウントコニーデ、オレンジエッグ、大地の広場、こどもの谷休憩所(軽食コーナー)、すずらんの丘展望台、ソリゲレンデ(冬季)	生きものの巣と大地をテーマにした大型遊具施設

	森のすみか	リスの散歩道、切り株迷路、木のぼりネット、森の隠れ家、ゆらゆらきのこ・メロディきのこ、こもれびネット、秘密の抜け道、森人の山小屋、材木飛ばし、森の吊り橋、森の工房、石造りの家跡	森をめぐる勾配の緩やかな木道や遊びと憩いの施設を配置。森を知るきっかけとなるゾーン。
	天文台		イベント開催時、またはオートリゾート滝野、青少年山の家での宿泊の際に使用可能。 ※有料エリア内施設
	つどいの森（芝生広場）、東口ゲート、ビジターセンター、東口休憩所、東口レストハウス、パークゴルフ場、マウンテンバイクコース、中央口休憩所（軽食コーナー）、駐車場		
ゾーン 宿泊	オートリゾート滝野（オートキャンプ場）、青少年山の家		
滝野の森ゾーン（有料）	東エリア	森の交流館、森見の塔、ローラー滑り台、森のデッキ、ねずみのみち、カラマツデッキ、森の教室、歩くスキーコース（冬季）、スノーシューエリア（冬季）	森を見て、知って、学べる様々な施設や、森林ガイドツアー、間伐材を利用した体験プログラム、環境教育プログラムなどがある。
	西エリア ※ 冬季閉鎖	森の情報館、滝野の森口駐車場、田んぼの広場、はるにれ広場、森の観察デッキ、沢の広場、みずなら広場、滝野の森口多目的広場、歩くスキーコース（冬季）	「北国の自然と人との共生」をテーマに、シラネアオイやヤマシャクヤクなどの様々な山野草の観察、田んぼや住居跡を通じて人と自然の関わりを学ぶエリア。



■園内図



<入園料>

	大人 (15才以上)	小人 (小・中学生)	小学生未満	シルバー (65才以上)
個人	410円	80円	無料	210円
団体	290円	50円		1,300円
年間パスポート	2,600円	500円		

身障者・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を提示された方と付添の方1名無料
 冬季入園料 (12月23日～3月31日) 無料

< 駐車場 >

公園入口	駐車場	大型車	普通車	身障者用
溪流口	溪流口駐車場	—	149 台	8 台
	中央口駐車場	11 台	954 台	11 台
	東口駐車場	11 台	612 台	5 台
鱒見口	鱒見口駐車場(冬季閉鎖)	—	162 台	5 台
滝野の森口	滝野の森口駐車場	—	216 台	5 台
	南駐車場	10 台	218 台	5 台
合計		32 台	2,311 台	39 台

	大型車(バス等)	普通車	二輪車
1 台につき	1,230 円	410 円	150 円
回数券(3 枚綴り)	3,130 円	1,030 円	380 円
年間パスポート	—	2,060 円	—

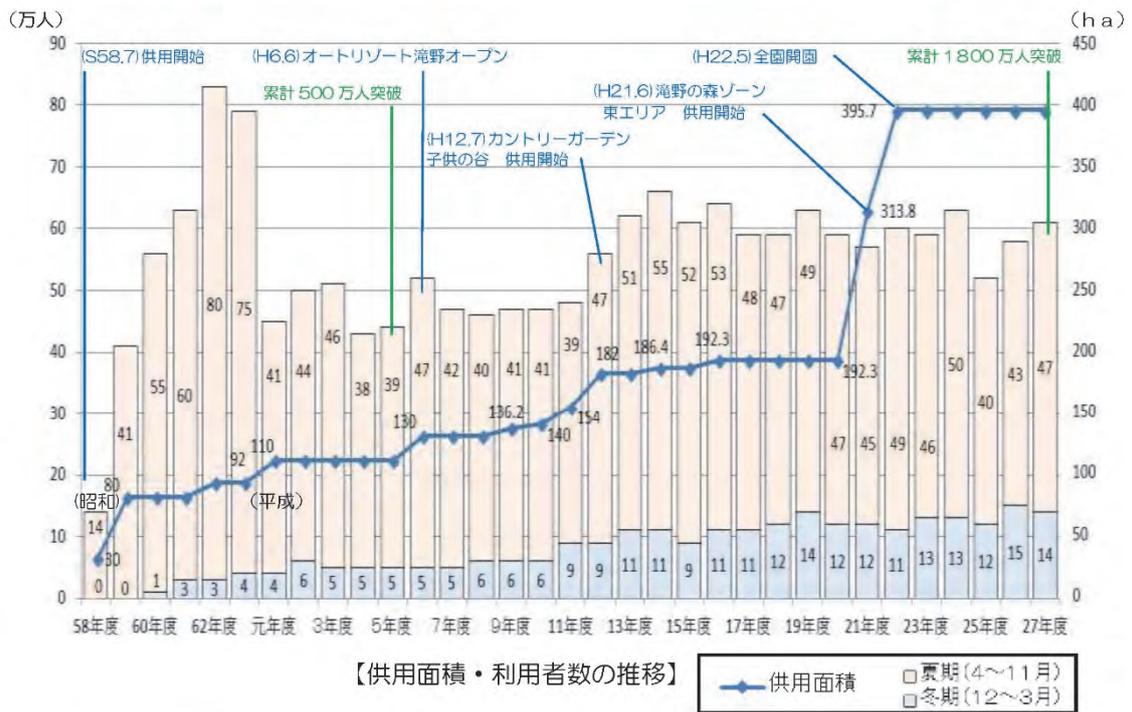
※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を提示された方は 1 台分が無料。

ただし、大型バスの場合には 2 人以上の身体障がい者手帳等の所持者の乗車が必要

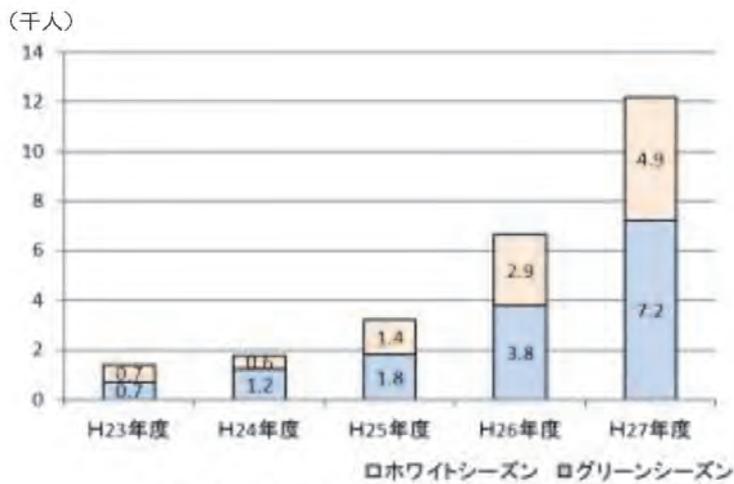
※利用当日に限り、1 回支払われた駐車料金で各駐車場間の移動可能

■管理

利用者数	61 万人(H27)
マスコミ報道等件数	402 件(H26)
ホームページのアクセス数	1,888,507 件(H26)



インバウンド(外国人利用者)の状況は、平成23年度から毎年約80%ずつ増加しています。平成27年度は、平成23年度に比べ、9倍の約12,000人の外国人利用者がいます。



<ボランティア>

フラワーガイド ボランティア：登録人数 39 名、延べ活動者数 758 名、活動回数 169 回

滝野の森クラブ：登録人数 44 名、延べ活動者数 1,572 名、活動回数：238 回

ボランティア名	活動内容
滝野公園フラワーガイドボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・園内みどころの案内 ・植物に関する各種の情報の提供 ・公園に関する各種の案内や禁止事項の周知
滝野の森クラブ	<p>森林ガイドボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーガイド ・スノーシューガイド <p>森づくりボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林管理作業の補助 ・世話人は代表世話人を補佐し、メンバー相互の連絡調整を図り、活動の円滑な運営に努めるための業務を行っていただきます。 <p>インタープリターボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習プログラムの企画・実施 <p>滝野の森クラブ全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、本クラブに関する活動

<H29 重点管理項目>

植物管理

○自生植物や貴重な自然資源の保全・活用

滝野の森に残る自生植物や貴重な自然資源（希少種）の保全・活用を図り、自然の資源性・多様性を高めるため、外来植物の駆除や林地の下草刈りなど、滝野の森ゾーン（西エリア）における希少植物の生育環境の計画的保全、沢地での環境教育活動による水生生物への影響の把握と順応的管理などを適切に行い、種類数や個体数の維持・増加、生育地の保全に努める。

○草花を活かした彩り豊かな美しい景観の形成

開花時期において多くの利用者に喜ばれ、花に対する満足度の向上を図るため、スズランなど公園のシンボルとなる特定の草花や一般的に広く知られている草花を中心に、多様な園芸植物を組み合わせた彩り豊かな美しい花風景を提供する。

○良好な環境の形成

公園から排出される植物性廃棄物の堆肥化、チップ化によるリサイクルを推進する。

地域連携

「花ガイド」や「森林ガイド」をはじめとする公園の管理運営に関わるボランティア活動への地域住民の参加や、公園内での企業の社会貢献活動を促進するなど、公園管理に多様な主体が参加することによる地域や企業とのパートナーシップを構築し、公園の管理運営を通じた人づくりへの貢献を目指す。

また、市民や教育・研究機関等による自然環境等を活用した学習・研究の場としての利用も支援する。

施設管理

○リスク低減対策など危機管理の強化による安全・安心な公園の創出

防災対策は、予防、応急、復旧、復興の一連の体系の中で実施されていくものであり、災害の対象は自然災害、工事事故のほか、公園特有の遊具事故、イベント時事故、食中毒のほか、園内救急要請など多岐にわたるため、行政機関（国・道・市）、警察、消防、学識経験者、ボランティア、市民団体、NPO、企業、運営維持管理業務受託者等関係者と横断的かつ組織全体的な緊急情報連絡体制を構築するとともに、防災訓練等を通じ、来園者の立場に立った防災・リスク低減対策を進める。

○メンテナンスサイクルの構築とトータルコスト縮減

公園の魅力や安全性・防災性の向上を図るため、厳しい自然環境に対応した計画的な施設や遊具の保守点検・維持・修繕・更新が必須です。このため、効率的・効果的に施設の機能維持を図るとともに、施設の長寿命化による環境負荷の軽減や戦略的メンテナンスを図るため、長寿命化計画に基づく施設の予防保全型管理や、事後保全管理を計画的に進める。

また、利用者数や満足度に寄与する度合いをハード面・ソフト面から継続的に検証し、利用実態に応じて施設を集約することなどにより、維持修繕費の縮減を図りながら利用向上に寄与する施設・エリアに集中投資することで、利用促進と魅力の維持・向上を図る。

○公園環境のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の推進

子供・高齢者・障がい者・外国人など幅広い利用者が交流し、安全・安心で快適に利用できる公園環境の創出を図るため、園内サインへのピクトグラム（視覚記号）の追加や多言語化、多目的トイレの機能充実、外国人対応の案内放送など、施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を更に推進する。

環境保全

地球環境に配慮した循環型公園づくりを推進するため、LED照明の導入などにより、公園内で消費される電気、ガス、水道等のエネルギー使用量の削減に努める。

⑧国営ひたち海浜公園

国営ひたち海浜公園は、昭和48年に米軍から返還された水戸対地射爆撃場跡地の平和利用の一環として、恵まれた自然環境を保全するとともに、首都圏における増大かつ多様化するレクリエーション需要に応えるため、国が整備・管理する国営公園。

■区分	イ	(設置目的)	—
■所在地	茨城県ひたちなか市		
■面積	計画面積	350ha	
	開園面積	199.5ha	

■広域図



■年表

S58(1983).4.14	都市計画決定
H3(1991).10.5	供用開始(70.0ha)
H7(1995).3.16	たまごの森を追加供用(6.0ha)
H8(1996).4.1	ひたちなか自然の森を追加供用(12.1ha)
H9(1997).4.1	林間広場、記念の森庭園を追加供用(4.4ha)
H11(1999).7.17	中央フラワーガーデン等を追加供用(11.5ha)
H12(2000).4.15	南口駐車場を追加供用(3.5ha)
H13(2001).7.20	砂丘ガーデンを追加供用(8.5ha)
H16(2004).10.6	海浜口を追加供用(3.4ha)
H18(2006).3.18	ひなの林を追加供用(6.4ha)
H18(2006).7.19	砂丘観察園路等を追加供用(9.2ha)
H20(2008).4.20	みはらしの里第一期を追加供用(6.1ha)
H21(2009).4.18	砂と海の林サイクリング園路を追加供用(12.1ha)
H22(2010).10.1	みはらしの里第二期を追加供用(7.2ha)
H24(2012).5.20	樹林エリア園路(散策園路含む)・みはらしエリアサイクル園路を追加供用(31.5ha)
H27(2015).3.26	沢田湧水地環境学習エリア・多目的広場を追加供用(7.6ha)

■コンセプト

テーマ	海と空と緑が友達 爽やか健康体験
理念	<ul style="list-style-type: none"> ○首都圏における増大かつ多様化するレクリエーション需要に応えるものとする。 ○広大な自然環境の中に体験と活動の場を提供し、国民の資質の向上に資するものとする。 ○地方の文化を生かし、その振興に寄与できるものとする。
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ○園内の自然や四季折々の花が楽しめるとともに、国民各層が利用・活動できる公園とする。 ○園内に残された広大な樹林地、沢田湧水地、砂丘環境を環境学習や体験の場として保全・利用する公園とする。 ○一日を快適に、且つ安全に楽しめる公園とする。 ○ひたちの歴史・風土・文化に親しめる公園とする。 ○地域における観光・レクリエーションの中核として地域活性化に寄与する公園とする。

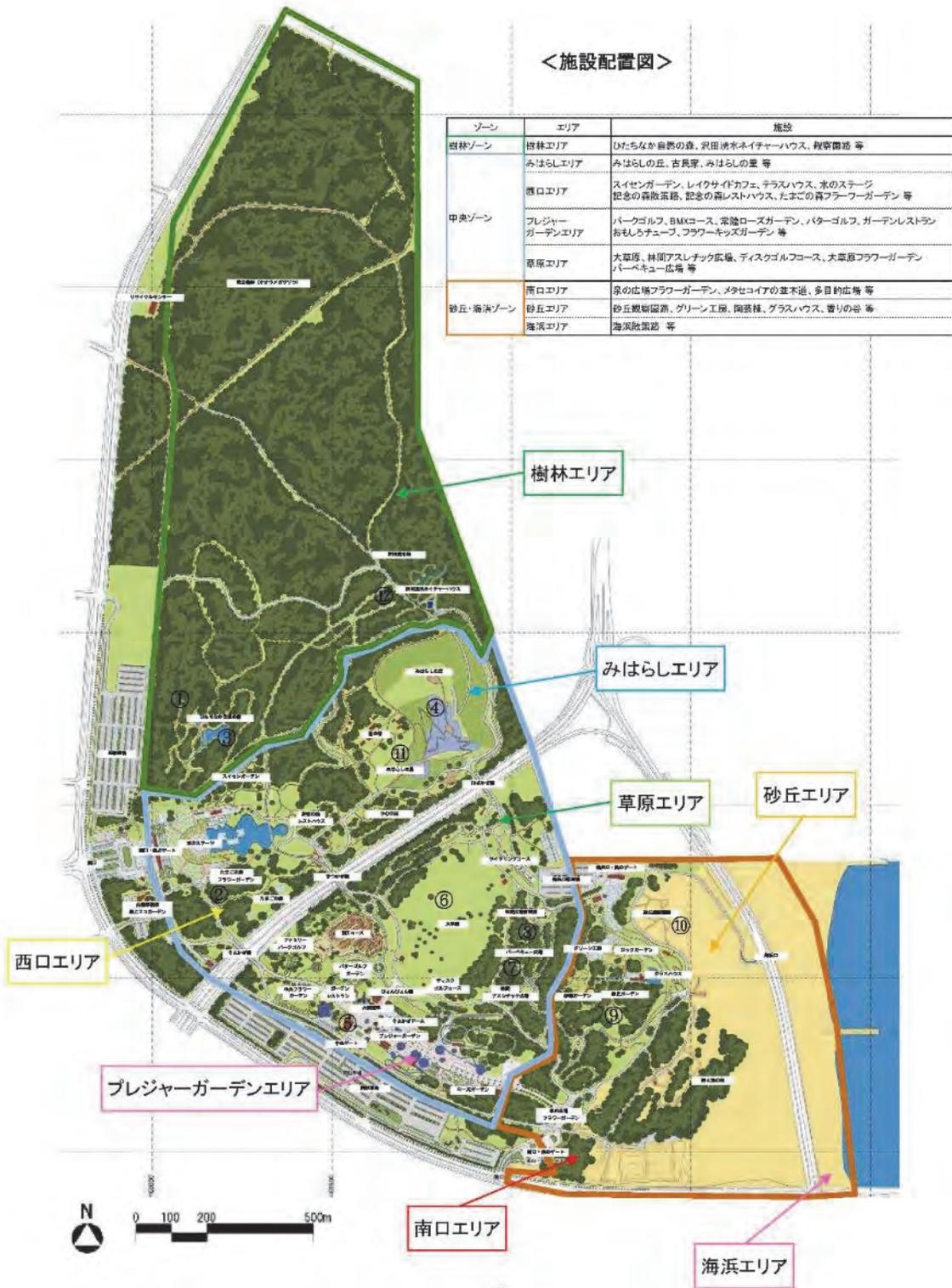
■施設

みはらしエリア	みはらしの丘	建設発生土により造成した人工の丘の上から太平洋を望むことができる。毎年 GW 前後にはネモフィラが咲きそらい丘一面をブルーに彩るほか、秋にはコキアやコスモスが丘を赤く染める。
	みはらしの里	ナノハナ、ソバなどを栽培している古い民家や畑での農業活動など「なつかしい農村風景」を見ることができ、また、農作物の収穫や昔遊びなどを体験することができる。
	古民家・里の家	江戸時代前期と中期に建てられた茅葺古民家を移築復元。家の前には畑が広がり、当時の農村風景を再現している。
	沢田湧水地、沢田湧水ネイチャーハウス、ひなの林	
樹林エリア	ひたちなか自然の森	アカマツクロマツなど既存の植生を活かして整備した樹林地で、希少な植物が自生している。
	沢田湧水地環境学習エリア	
草原エリア	大草原	面積約 8ha の芝生広場。ボール遊びから大規模イベントまで様々な遊びができる。風の強い特性を活かした凧づくり教室や、小学校低学年を対象としたサッカー大会など様々なイベントに使用されている。
	林間アスレチック広場	13 種類のアスレチック遊具が設置されている。主に小学校低学年ぐらいを対象。
	バーベキュー広場	松林に囲まれたバーベキューサイトが 4 種類で 27 カ所ある。使用料無料。
	大草原フラワーガーデン	春から初夏にかけてはポピーやリナリア、秋にはキバナコスモスやコスモスが咲き誇る景観を楽しめる。
	常陸野のこみち	主に秋の七草など、秋の風情が感じられる草花を楽しめる。
	ディスクゴルフコース	18 ホール(11 月 1 日~2 月末日は 27 ホール)のコースが設置されている。コースの使用及びディスクの貸出しは無料。
砂丘エリア	砂丘の地形や植生をそのまま残し、厳しい条件下にたくましく生きる海浜性植物を観察できる。公園ボランティア「海浜植物パートナー」を中心に、海浜部の景観回復のためにスカシユリ等の増殖活動も行っている。	

	砂丘ガーデン	砂礫ガーデンやロックガーデンなどの花や植物とふれあえる5つの小ガーデンがあり、約60種類の海浜植物ほか、ハーブや多肉植物など園芸植物を約130種類見られる。また、園芸や陶芸といった様々な活動を行うことができるグリーン工房や陶芸広場、海の広がりを感じられるグラスハウスといった施設がある。	
	砂と海の林	標高45mの「海の見える丘」からは阿字ヶ浦が一望でき、大砂丘越しに大海原を見下ろせる。	
	海浜口サイクルセンター		
西口エリア	水のステージ	直径40mの円形、石張りのステージ。1万人の観客を収容可能。	
	スイセンガーデン	約1万㎡のエリアに、スイセンが植えられて	
	記念の森	散策路	四季の移り変わりを感じられるガーデン。
		レストハウス、歴史ギャラリー	
	たまごの森	森を巣に、そこで遊ぶ子ども達を卵に見立てた遊び場やチューリップの本場オランダの「キューケンホフ公園」を彷彿とさせるチューリップガーデンがある。	
西口サイクルセンター、西池、レイクサイドカフェ、テラスハウス			
南口エリア	泉の広場フラワーガーデン	夏にヒマワリが広がり人気のスポットとなる。	
	泉の広場	噴水のある広場。	
	多目的広場	約2haの芝生広場で、サッカーやイベントなどの利用が可能。(要予約)	
	メタセコイアの並木道、エノキの丘、南口サイクルセンター		
プレジャーガーデンエリア	フラワーキッズガーデン	周囲をウバメガシの高垣で囲われたガーデン内には動物の名前がついた草花などを集めて植栽。	
	おもしろチューブ	全長400mもある巨大な遊具の他、19種の遊具がある。	
	水遊び広場	「ジャブジャブ池(幼児用・児童用)」、「噴水広場」、「水のトンネル」がある。夏季のみ利用可能。	
	BMXコース、パークゴルフ、中央サイクルセンター、常陸ローズガーデン、中央芝生広場、飲食店、ショップ		



■園内図



<入園料>

年齢	一般	団体	年間パスポート	駐車場券付
大人 (15歳以上)	410円	290円	4,100円	6,160円
シルバー (65歳以上)	210円	210円	2,100円	4,160円
小人 (小中学生)	80円	50円	800円	-

幼児（6歳未満）、障がい者入園は無料

ペット連れでの入園は可能

<駐車場>

車種	料金	年間パスポート提示での割引料金
大型車	1,550円	-
普通車	510円	410円
二輪車	260円	210円

西駐車場 2000台、南駐車場 2000台、海浜口駐車場 350台

<シーサイドトレイン>

1日周遊券	
料金	500円
備考	3歳以上有料

■管理

利用者数	1,767,731人(H26)
マスコミ報道等件数	1,586件(H26)
ホームページのアクセス数	3,342,626件(H26)

<ボランティア>

登録者数 421人 (H27)

沢田湧水地パートナー、ハーブパートナー、記念の森パートナーズ、野生植物パートナー、みはらしの里パートナー、里山パートナー、フォトパートナー、スイセンガイド、砂丘美化パートナー、パークアテンダントガイドボランティア、スクールパートナーひたちなか市立阿字ヶ浦中学校、スクールパートナースクールサイエンスクラブ、スクールパートナージュニアボランティア（計13団体）

<H29 重点管理項目>

植物管理

- 四季を通じた賑わいと心ときめく場の提供
 - ・ネモフィラ、コキアの大規模花修景のほかスイセン、チューリップ、バラ、ヒマワリ、コスモスなど、春から秋にかけての花修景について、その魅力維持に向けた適正な生育環境を整えフラワーリレーを展開。
- 海と森と草原に心身が癒される空間の創出
 - ・砂丘・海浜エリアについては、細部のゾーンごとの適正な自生・展示植物の保全、管理により、海浜景観の再生に努めるとともに海浜性植物等とのふれあいの場を提供。
 - ・樹林エリアにおけるトレイルコース等の整備に合わせ、ヤマザクラ、アカマツ、コナラ等の保全・再生に取り組み、四季を通じて楽しめる樹林空間を提供。
- 貴重な自然環境の保全と環境資源の活用
 - ・深刻化するマツ枯れを防ぐ対策を講じるとともに、補植等マツ林の再生に向けた管理を市民参加も取り入れながら実施。
 - ・剪定枝や伐採木など園内の植物発生材のチップ化等に取り組むほか、まつぼっくりや木の実等をクラフト材料として活用するなど自然資源を活用。

地域連携

- ・多くの来園者で賑わう地域を代表する観光拠点として、県や市をはじめ、周辺地域、公共交通機関等との連携を高めながら、観光エリアとしての周遊利用を推進。
- ・地域の大きな魅力である特産品、食材等を積極的に発信し、地域経済振興に寄与。
- ・ひたちなか市との「音楽」による連携をはじめ、地域づくりの視点でのイベントやプログラムを地域と一体となって実施し、本公園と地域の魅力を共同で発信。
- ・増加する外国人観光客への配慮など、地域とともにインバウンド利用への対応を強化。
- ・市民のさまざまな活動の発表の場としての活用を促進するほか、利用者が公園管理や運営に参加できるイベントやプログラムを実施し、幅広い層の市民参画を促進。
- ・パークパートナー活動のサポート強化を図るとともに、利用者とパークパートナーとの交流を通じてパートナー活動を拡充。

施設管理

- 誰もが安全に安心して快適に楽しめる場の確保
 - ・公園周辺を含めた繁忙期の利用混雑時において、公共交通機関の利用促進や入園口、利用動線、利用エリアにおける分散化など、さまざまな混雑緩和策を実施。
 - ・老朽化が進む施設や園路等の計画的な更新及び修繕により、利用者がより安全、快適に利用できる環境を提供。
 - ・増加する外国人観光客をはじめ、多様な利用者層に対応するハードとソフト両面でのユニバーサルデザイン化を推進。

環境保全

○貴重な自然環境の保全と環境資源の活用

オオウメガサソウやオゼイトトンボ、ハナハタザオ等の貴重な動植物とその生息環境を市民・公園利用者・ボランティア等と保全するとともに、外来植物の除去やスカシユリの増殖などによる砂丘景観の復元等にも取り組み、良好な景観形成に努める。